

ブリヂストン化工品ジャパン

2018 年度環境活動レポート

皆で取り組もう

エコアクション21



【活動対象期間：2018 年 1 月～2018 年 12 月】

2019 年 3 月 発行
2019 年 6 月 改訂

« 目次 »

1. 当社のご紹介

2. 環境への取り組み

3. 地域とのコミュニケーション

4. 代表者による総括

1. 当社のご紹介

◆会社概要◆

代表者	代表取締役社長 永徳 文彦
創立	1962 年(昭和 37 年)5 月 1 日
社員数	881 名(2018 年 12 月時点)
資本金	400 百万円
株主	株式会社ブリヂストン
決算期	12 月
主要仕入先	株式会社ブリヂストン
所在地	東京都港区芝公園 2-4-1 ※各拠点は事業所一覧を参照
取引銀行	みずほ銀行、三井住友銀行

2018 年度スローガン

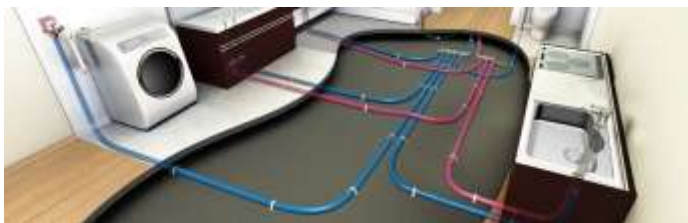
築こう盤石な事業基盤

創造しよう顧客価値

ソリューション戦略進化で目指せ国内「断トツ」

◆事業内容のご紹介◆

ブリヂストングループが生産する産業・建設・インフラ資材の販売

産業資材	コンベアベルト	ゴムベルト・パイプコンベアベルト
	ホース	ゴムホース(低圧ホース・高圧ホース) 樹脂ホース 
	産業機器	口金具加締め機 防振ゴム・空気バネ エアピッカー&エアグリッパー
	建機・農機足廻り部品	ゴムクローラ・MT パッド  農機用タイヤ
建築資材	配管システム	プッシュマスター・プッシュロックⅡ 
	住設機器	FRP 製ユニットバス
インフラ資材	免制震システム	建築免震ゴム(積層ゴム) 
上記一部商品の組立・施工		

2. 環境への取り組み

◆ブリヂストン『環境宣言』◆

ブリヂストングループとしては『環境宣言』に基づき、グループグローバルで環境への取り組みを推進しています。



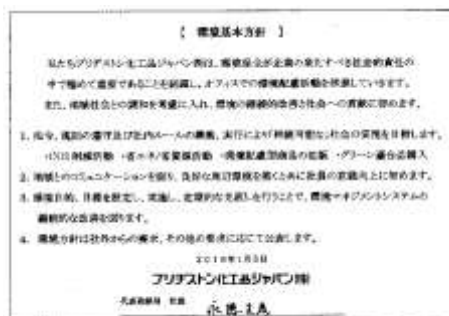
◆ブリヂストン化工品ジャパンの環境活動◆

社会の環境への要求及び、ブリヂストングループの方針を踏まえ、非生産系企業の当社は以下を環境活動として掲げています。

- 社会のルールを守る
- CO₂ 排出量の削減活動（CO₂ 排出量削減 → 温室効果ガス削減 → 地球温暖化対策）
- 省エネ・省資源活動（節電・エコドライブ・節水や廃棄物の削減、環境商品への取り組み）

これらの取り組みを、当社ではエコアクション 21 を活用し推進しています。

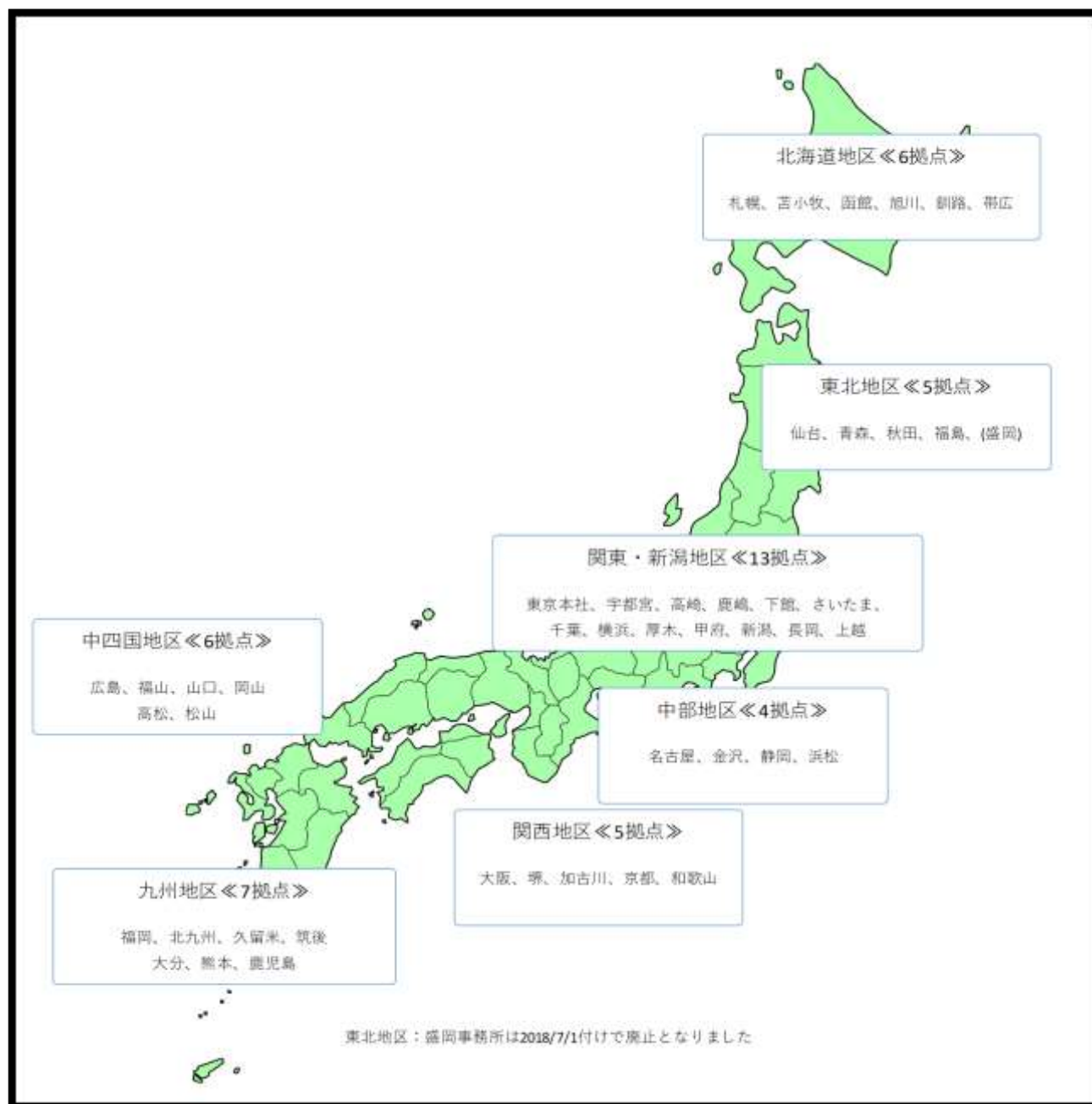
◆環境基本方針◆



- 私たちブリヂストン化工品ジャパン株式会社は、環境保全が企業の果たすべき社会的責任の中で極めて重要であることを認識し、オフィスでの環境配慮活動を推進していきます。
- また、地域社会との調和を考慮に入れ、環境の継続的改善と社会への貢献に努めます。
1. 法令、規則の遵守及び社内ルールの構築、実行により「持続可能な」社会の実現を目指します。
- CO₂ 削減活動、省エネ/省資源活動、環境配慮型商品の拡販、グリーン適合品購入
2. 地域とのコミュニケーションを図り、良好な周辺環境を築くと共に社員の意識向上に努めます。
3. 環境目的、目標を設定し、実施し、定期的な見直しを行うことで、環境マネジメントシステムの継続的な改善を図ります。
4. 環境方針は社外からの要求、その他の要求に応じて公表します。

◆エコアクション 21 認証登録範囲◆

エコアクション 21 の認証範囲は北海道から九州までの 47 拠点を活動範囲としています。

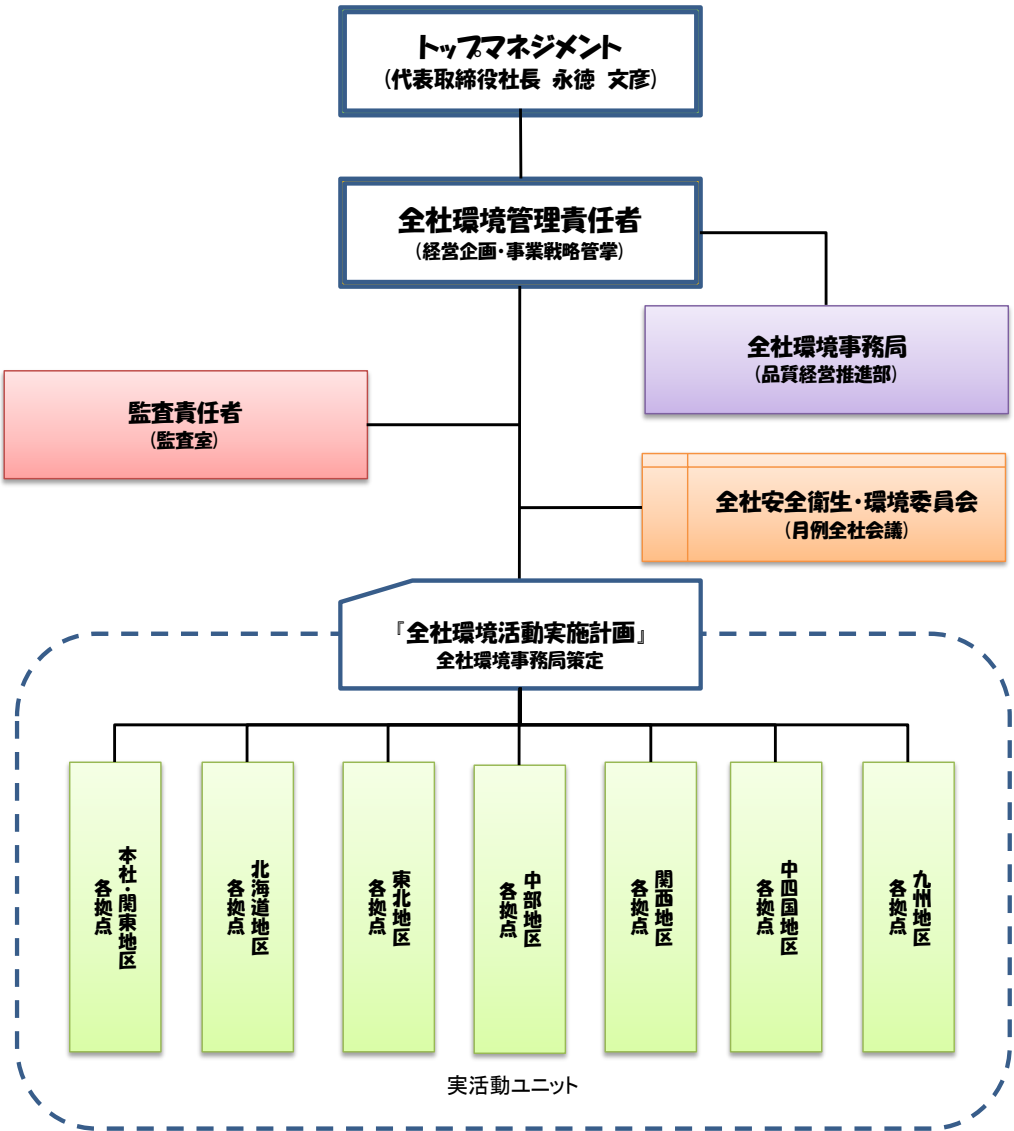


◆環境活動の推進体制◆

作成：2018/2/6

全社環境事務局(9110)

ブリヂストン化工品ジャパン 環境活動推進体制



◆環境責任者 及び 環境推進事務局◆

全社環境管理責任者	経営企画・事業戦略管掌	取締役 常務執行役員 上田 達也
全社環境事務局	品質経営推進部	品質・環境推進課

◆環境活動内容◆

	活動項目	実施事項	数値目標 【納期は全て 12 月末】
電力	照明 OFF 活動	昼休みの消灯 不必要照明の消灯	目標値 2017 年実績同等以下 1,650kWh/人 以下
	オフィスカジュアルの導入 (2018 年 9 月から)	・夏季(5-10 月)のクールビズ(ネクタイ・上着不要)を、“オフィスカジュアル”として通年に拡大 ・清潔感を保ち、お客様や社内メンバーから見て不快感を与えない服装の着用を許可 ※新服装基準・ガイドラインの設定	
	ノー残業デー推進	水曜の残業なし活動	
化石燃料	ガソリン使用量削減	駐車時のアイドリングストップ エコドライブの励行 『エコドライブ 10 のすすめ』による啓蒙 エコカーの適正配置と採用	目標値 2017 年実績同等以下 420L/人 以下
廃棄物	ムダ防止	不必要コピー撲滅の徹底 ペーパーレス会議の推進	
環境商材	事務用品購入	グリーン購入法適合品の積極採用	グリーン購入法適合品購入比率 各ブロック 30%以上
教育	周知・横展開	社内会議(安全衛生・環境委員会)で環境関連トピックスの連絡	環境トラブル ZD
	社内教育	社内教育資料で対象拠点に配信	

備考

- ・当社は業務上、水を使用する工程はありませんので目標は設定していません
- ・当社は業務上、PRTR 制度に該当する化学物質を取り扱うことはありませんので目標は設定していません

◆2018 年度環境目標と結果◆

《目標》

2018 年度の環境目標

環境活動はエコアクション 21 活動をベースとした環境活動の強化を図り、環境目標を達成すること。

①2017 年度実績対比 1 人当りの CO₂ 排出量同等以下(1,900kg-CO₂/人)

②各ブロック単位で事務用品購入品目の 30%以上をグリーン購入法適合品

③※1・環境トラブル ZD

※1.環境トラブルとは法規違反や化学物質・作動油の漏洩などを指します。

ZD とは ZeroDefect(ゼロディフェクト)で“無欠点”“無欠陥”を意味します。

目標①

2017 年度実績対比 1 人当りの CO₂ 排出量同等以下(1,900kg-CO₂/人)

当社は 2015 年 1 月にブリヂストン化工品東日本とブリヂストン化工品西日本が合併し、ブリヂストン化工品ジャパンとなりました。

さらに 2015 年 7 月にはブリヂストンタイヤジャパンの堺事業所・下館事業所が加わり、販売エリア・売上規模の拡大とともに従業員数も大きく変動しました。

そのため、当社の環境活動の指標は、総量に加えて、従業員 1 人当たりでも表しています。

《結果》

総量当り	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度
売上高 (百万円)	85,252	87,909	93,168	90,734
CO ₂ 総排出量 (kg-CO ₂)	1,661,641	1,775,366	1,743,943	1,607,361 (対前-7.8%)
電力使用量 (kWh)	1,237,303	1,454,581	1,495,203	1,449,059 (対前-3.0%)
ガソリン使用量 (L)	397,580	398,760	372,451	332,774 (対前-10.6%)
都市ガス使用量 (m ³)	25,684	26,479	29,942	30,030 (0.2%)
水使用量 (m ³)	4,660	5,217	5,204	5,397 (対前 3.7%)
一般廃棄物排出量 (kg)	39,853	35,415	25,949	18,321 (対前-29.3%)
産業廃棄物排出量 (kg)	911,105	422,593	183,040	87,840

備考

・産業廃棄物排出量は、自治体への報告年度毎の集計値となります (例：2017 年度は 2017/4/1～2018/3/31 迄)

従業員 1 人当り	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度
環境目標(単年目標)	CO ₂ 前年比 1%削減 電力前年比 1%削減 ガソリン前年比 1%削減			2017 年同等以下 CO ₂ : 1,900kg-CO ₂ /人 以下 電力 : 1,650kWh/人 以下 ガソリン : 420L/人 以下
対象従業員数 (人)	851	901	896	889
CO ₂ 排出量 (kg-CO ₂ /人)	1,952	1,970	1,946	1,806 (対前-7.1%、対目標-4.8%)
電力使用量 (kWh/人)	1453	1,614	1,668	1,629 (対前-2.3%、対目標-1.2%)
ガソリン使用量 (L/人)	467	442	415	374 (対前-9.8%、対目標-10.9%)
都市ガス使用量 (m ³ /人)	30	29	33	33 (対前 0%)
水使用量 (m ³ /人)	5.4	5.7	5.8	6.0 (対前+3.4%)
一般廃棄物排出量 (kg/人)	46	39	28	20 (対前-28%)
産業廃棄物排出量 (kg/人)	1,070	469	204	98 (対前-107%)

備考

- ・対象従業員数とは、12 か月間の従業員数の平均人数となります。
- ・産業廃棄物排出量は、自治体への報告年度毎の集計値となります（例：2017 年度は 2017/4/1～2018/3/31 迄）
- ・当社では業務上、水を使用する工程はありませんので目標は設定していません
- ・当社では業務上、PRTR 制度に該当する化学物質を取り扱うことはありませんので目標は設定していません

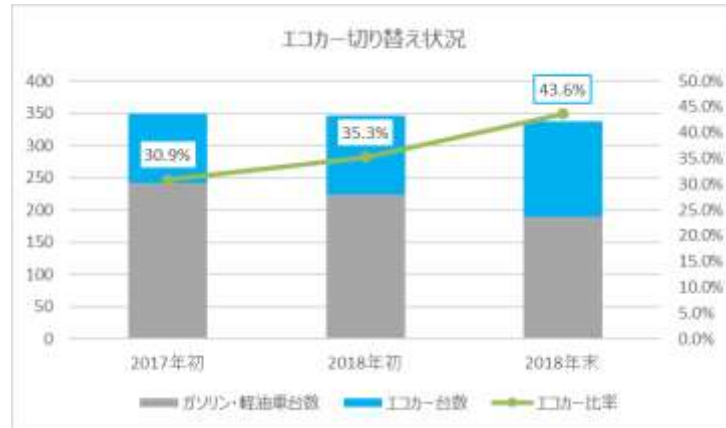
《事務局コメント》

電力使用量・・・

全社的に定時退社を推進したことで、電気使用量削減に寄与したものと考えます。

ガソリン使用量・・・

エコカー比率 UP、燃費効率を考えた移動の推進により、ガソリン使用量削減に寄与したものと考えます。



CO₂ 排出量・・・

ガソリン使用量と電力使用量の全社一丸の削減活動により、CO₂ 排出量目標を達成できました。

目標②

各ブロック単位で事務用品購入品目の 30%以上をグリーン購入法適合品

《進捗》

		グリーン購入品 購入比率		
		2016 年	2017 年	2018 年上期
オフィス拠点	北海道	40%	72%	67%
	東北	33%	38%	41%
	関東	50%	51%	68%
	新潟	24%	30%	41%
	中部	21%	49%	49%
	関西	37%	51%	52%
	中四国	41%	53%	49%
	九州	53%	58%	51%
作業拠点	堺	関西に含む	40%	45%
	下館			51%
	筑後		39%	20% (購入先変更により購入データの集計が一部不可)

備考

- ・2018 年度は 7～12 月の実績が集積できていないため上期(1～6 月)の実績となります
- ・当社ではグリーン購入法適合品、エコマーク商品、GPN データベース掲載商品をグリーン購入品としています。

《事務局コメント》

オフィス拠点の北海道～九州地区は目標である購入比率 30%以上を達成している状況。
備品購入担当者にもグリーン購入法適合品を選んで購入することが定着していることがうかがえる。

目標③

環境トラブル ZD

《結果》

廃棄物の違法な投棄や、河川等への油分の漏洩など、重大なトラブルの発生はありませんでした。

◆環境中期目標と結果 〈2013～2018 年の 5 か年〉◆

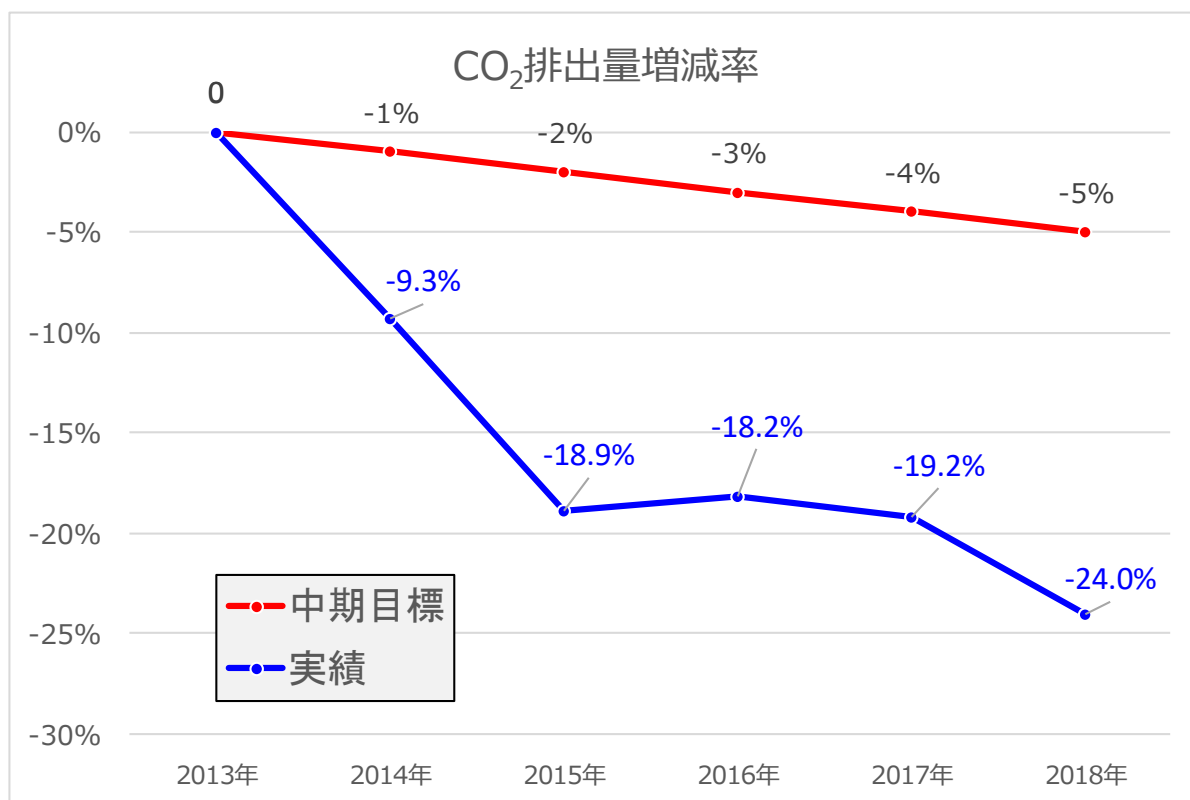
環境中期目標

- ①2018 年度 1 人当りの CO₂ 排出量を 2013 年実績対比で 5%削減
- ②2018 年度 事務用品のグリーン購入品比率 25%以上

環境中期目標とは、2013 年に策定した 2018 年度までの中期的な環境目標となります。

②のグリーン購入比率は前頁で説明しているため割愛します。

《結果》



備考

CO₂ 排出量を算出するにあたり、2018 年度は H29.12.21 公表の調整後排出係数を、2017 年度及び 2016 年度は H28.12.27 公表のものを使用しています

《事務局コメント》

エコアクション 21 認証取得以降、全社一丸で環境活動に取り組んだ結果、CO₂ 排出量は大幅に削減できました。

◆環境関連法規の遵守状況◆

当社に関係する 主な法令	要求事項	対応状況	遵守
フロン排出抑制法	業務用エアコンの簡易点検及び定期点検	3 か月内に簡易点検を実施	一部に課題 ⇒是正済み
廃掃法	処理の業を取得した業者と契約締結	契約書を以て締結	OK
	許可証内容の確認	契約内容一覧表で確認し、 必要都度最新版許可証を取り寄せ	OK
	産業廃棄物管理票の交付と保管	引き渡し都度交付、適正保管	OK
	産業廃棄物管理票交付等状況報告	4 月～6 月内に集計し各自治体へ報告	OK
	産業廃棄物保管場所の表示	定置化された集積場に表示板設置	OK
騒音規制法	特定施設設置の届出、変更時の届出	所定の自治体へ届出提出	OK
振動規制法	特定施設設置の届出、変更時の届出	所定の自治体へ届出提出	OK

◆緊急事態を想定した取り組み◆

ブリヂストングループでは過去に発生した国内工場の火災以後、9/8 をブリヂストン『グループ防災の日』とし、毎年 9/1～9/30 までを防災強化月間としています。

各拠点単位で防災訓練や避難訓練を行い、災害時に備えた活動を行っています。

«『グループ防災の日』の主な活動内容»

- ・事務所内にポスターと垂れ幕の掲示
- ・ブリヂストングループ COO の講和 DVD 視聴
- ・防災訓練(避難訓練)
- ・身の回りの防災点検 ※非常持ち出し袋やテーブルタップの埃除去などを行います
- ・防災意識調査アンケートの実施
- ・防災座談会の実施

3. 地域とのコミュニケーション

◆地域とのコミュニケーション・社会貢献活動◆

ブリヂストングループは、事業を通じて社会に貢献することはもとより、企業市民として、より良い社会の実現に貢献するため、さまざまな社会貢献活動を展開しています。

当社は主に事務所周辺の清掃や、ペットボトルキャップの回収活動を行っています。

清掃	事務所周辺(歩道・公園など)の清掃
	地域ボランティア参加(東京お台場海浜公園の環境美化活動)
寄付	ペットボトルキャップの回収・寄付
	学童団体に段ボール・アルミ缶の寄付

↓ ペットボトルキャップの回収(東京本社) ↓



4. 代表者による総括

◆代表者による全体評価と見直しと指示

- 総括としては、環境実施計画の環境目標を達成できたので環境活動が定着できていると感じた。
- 本年のガソリン使用量が過年度に比べ下がっている。
理由が推測の域なので信憑性のある理由の発見を進めること。
次年度の環境活動実施計画にガソリン削減策を折り込むこと。
また、施策実施状況と結果は随時フォローすること。
- 環境関連法規への対応方法、CO₂増減の要因分析方法は、次年度の方針に折り込める施策を検討すること。

5. 次年度以降の環境目標

◆2019 年度環境目標◆

エコアクション 21 活動をベースとした環境活動を行い、次に掲げる目標を達成すること。

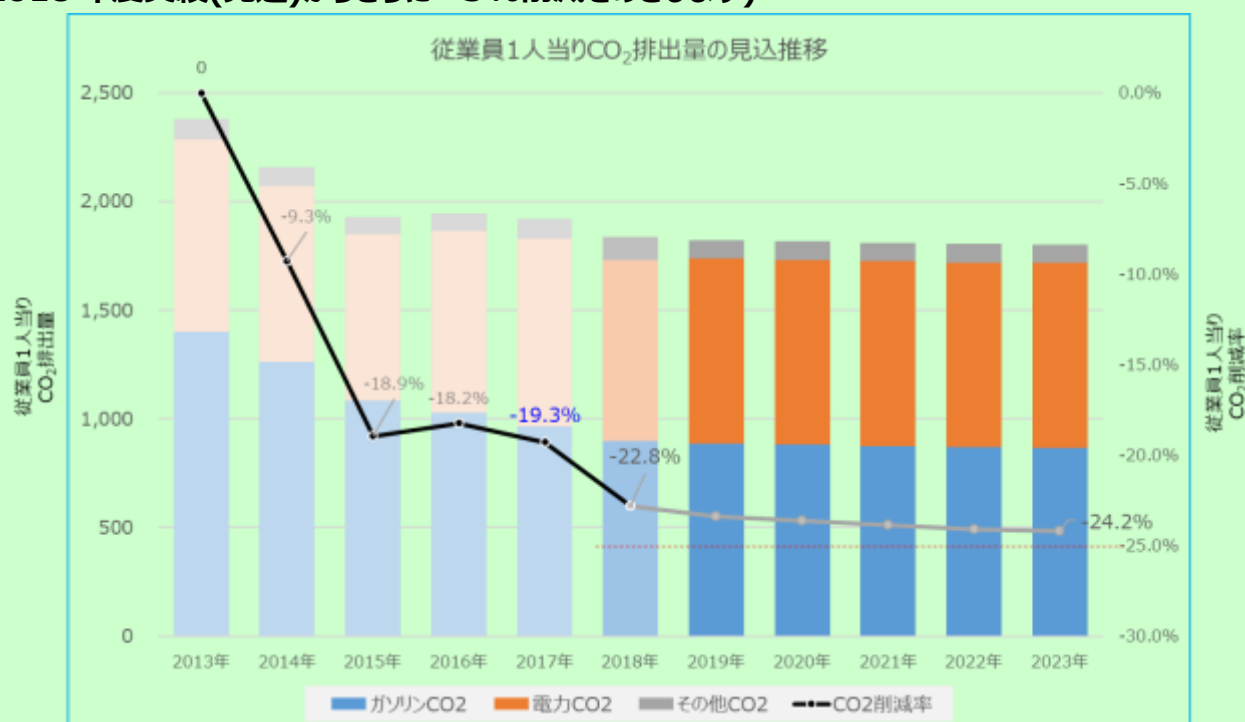
リーダーは率先して環境重点施策に取り組み、所属員の模範となること。

①2018 年度実績対比、従業員 1 人当りの CO₂ 排出量(電力・社車使用燃料)を 1%低減する

②環境トラブル ZD

◆環境中期目標 〈2019～2023 年の 5 か年〉◆

2023 年までに 2013 年度実績対比、従業員 1 人当りの CO₂ 排出量を - 25%とする
(2018 年度実績(見込)からさらに - 3%削減をめざします)



2019 年からはこれらの目標達成に向けて環境活動に取り組んでいきます

■ 本環境レポートの発行元

ブリヂストン化工品ジャパン株式会社
品質経営推進部 品質・環境推進課